

指導資料

鹿児島県総合教育センター

教育相談 第119号

- 小,中,高等学校,盲・聾・養護学校対象 -
平成17年5月発行

進路指導に生かす教育相談

フリーターやニート(無業者)の増加及び若年層の早期離職などが今日的な社会問題となっている。この背景・要因として、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等の社会環境の変化のほか、自己肯定感をもてない、人間関係をうまく築くことができない、進路を選ぼうとしないなどの児童生徒の意識の変容も指摘されている。

こうした状況を受けて、小学校段階からの職業観、勤労観をはぐくむ組織的、系統的なキャリア教育への取組が求められている。その取組の中心となるのが生き方(在り方)指導としての進路指導であり、教師は、すべての教育活動の中で、児童生徒と一緒に生き方を考えることが大切である。

そこで、本稿では、進路指導に生かす教育相談の在り方について述べる。

1 進路指導と教育相談

従来、進路指導における教育相談は、「進路決定」のための相談に重きが置かれがちで、個の発達を支援するという姿勢や取組が十分ではなかったと思われる。

個の発達を支援する観点に立ったとき、児童生徒一人一人に自己の可能性の発見や実現

のための意欲を高めるなど、自己理解を深めさせる活動が重要となる。その際大切なのが、児童生徒一人一人を見詰め、理解を深めるとともに、認め、励ますなどの教師のきめ細かな指導・援助である。

2 実態調査の結果から

当センターでは、平成16年度に教育相談に関する実態調査を実施した〔県内の児童生徒1,574人(小学校第5学年563人,中学校第1学年626人,高等学校第1学年360人,盲・聾・養護学校25人),教員1,235人(小学校329人,中学校374人,高等学校384人,盲・聾・養護学校148人)〕。

【児童生徒対象】 (盲・聾・養護学校含む)

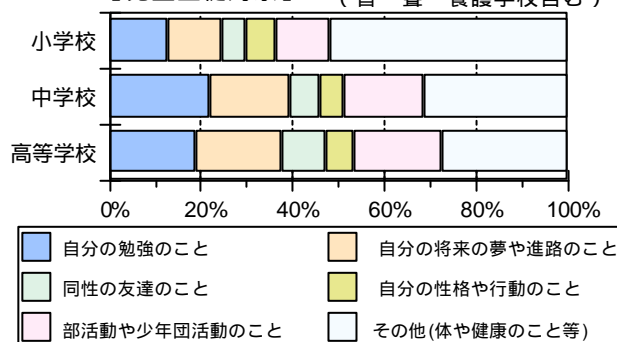


図1 今、気になったり悩んだりしていること

図1の「今、気になったり悩んだりしていること」については、各学校段階共に、「自分の勉強のこと」、「自分の将来の夢や進路のこと」などと答える児童生徒が多く占めて

いる。また、「将来の夢や進路のこと」については、学校段階が上がるにつれて増加している。

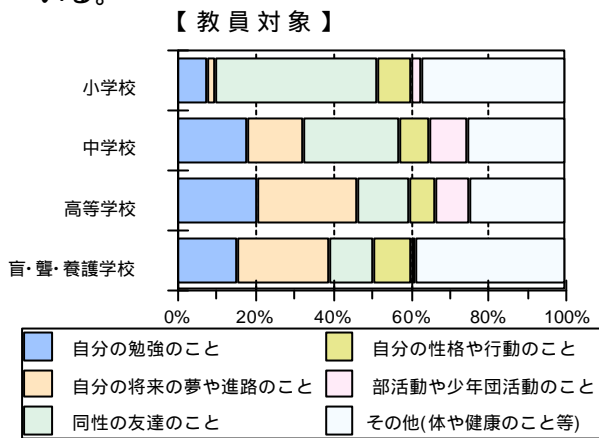


図2 児童生徒から受ける相談内容

また、図2の教員が「児童生徒から受ける相談内容」からも、同様の傾向が見られることから、学校段階や児童生徒のニーズに応じた進路に関する適切な支援が必要であると考える。

3 自己理解を促す教師の支援

進路指導を進める上で重要なことは、児童生徒の発達段階に応じて、個の発達を支援することである。「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」(国立教育政策研究所生徒指導研究センター、平成14年11月)の中で、職業的(進路)発達課題として、「夢や希望、憧れる自己イメージの獲得」、 「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」などが挙げられている。

教師に求められているのは、児童生徒がこれらの課題の達成を通して、将来、社会人・職業人として自立していくための能力や態度を身に付けさせることである。

そこで、児童生徒に自己理解を促す支援のポイントを次に示す。

「欲求と動機」からアプローチする
自分は何をしたいのか、どう在りたいのか、それはなぜなのかを考えさせることは、生き方(在り方)についての意識化を図ることもある。

「興味・関心」などからアプローチする
自分は何に興味・関心があるのか、何が好きなのかを考えさせることは、職業への興味・関心をもたせることもある。

「能力・特性」などからアプローチする
自分は何ができるのか、自己特性はどこにあるのかなどを考えさせることは、自分の可能性に気付かせることもある。

「価値観」からアプローチする
自分は何を大切にしながら働きたいのか、生きていきたいのかを考えさせることは、職業観や人生観をはぐくむこともある。

「役割・責任・期待」からアプローチする
自分は周囲から何を期待されているのか、果たすべき役割は何かを考えさせることは、生き方への自覚と責任を促すこともある。

「行動計画」からアプローチする
自分は「何をすべきか、どのように行動すべきか」などを考えさせることは、目標達成のための進路計画を考えることもある。

(宮城まり子(2004)を参考に作成)

4 形態別の展開例

ここでは、形態別の展開例を具体的に示す。

(1) 学級集団(小学校)における展開例

以下は、第6学年を対象に、児童の自己理解、職業理解を促すために構成的グループエンカウンターを用いた学級活動の指導案である。

ア 題材名 「将来の夢や職業について考えよう」

イ 本時の目標 自分の将来の夢や今、関心をもっている職業をテーマに話し合うことで、自分自身についての理解を深め、これから努力すべきことについて考えることができるようにする。
また、グループ活動を通して、職業についての考えを広げることができるようにする。

ウ 実 際 □：は自己理解を促すための支援のポイント（2P参照）

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入 (インストラクション)	1 ショートエクササイズ「あいこジャンケン」をする。 2 将来の夢や職業アンケート調査の結果を基に話し合う。 ・ いろいろな職業がある。 ・ 自分と違った夢や職業を考えている人がいる。 3 学習のめあてを確認する。 将来の夢や職業について考え、自分や友達について理解を深めよう。 4 学習の進め方を確認する。 インストラクション エクササイズ シェアリング まとめ	10分	・ 「あいこジャンケン」をすることで、相手のことを考えようとする態度と学習に対する意欲を喚起する。 ・ 事前に行った調査の結果を示し、気付いたことを自由に発表させる。 ・ 実現できそうにないものがあったとしても、笑ったり、冷やかしたりさせない。 ・ 小黒板にめあてを板書して掲示し、確認させる。 ・ 小黒板に学習の進め方を掲示し、見通しをもって学習できるようにする。 ・ インストラクションとしてワークシートを基に具体的な記入方法、グループ活動の進め方などを丁寧に説明する。
展開 (エクササイズ) (シェアリング)	5 自分の将来の夢や就きたい職業を書く。 6 グループを作り、一人一人の将来の夢や職業について考える。 (1) 質問を受ける順番を決める。 (2) 質問を受ける人は質問と自分の答えをワークシートに記入しながら答える。 (3) 質問は、1人1回1問ずつ全員が質問し終わったら、これを3回繰り返す。 (4) 質問への回答を参考にして、グループのメンバーが夢や職業を当てる。 7 ワークシートを見ながら、活動を振り返って感想を話し合う。 ・ 予想しない質問があって、答えにくかった。 ・ どんなことを質問すればいいかわからなかった。 ・ みんな、すてきな夢や職業を考えていてすごいと思った。 ・ 自分が就きたいと思っている職業でも、知らないことが多かった。 8 グループでの感想等を発表する。	30分	・ ワークシートに自分の将来の夢や就きたい職業を書かせる。 □欲求と動機 □興味・関心 ・ 夢は、職業に関することに限定する。 ・ 事前のアンケートを参考にして、グループ編成を工夫する。 ・ 質問のルールとして次のことを守らせる。 職業名を直接聞く質問はしない。 質問することが思い付かない場合は、次の人にパスをしていい。 回答内容は、詳しく説明ができない場合は「はい、いいえ」だけでもよい。など ・ シェアリングで出てくる自己に関する新たな気付きは、小さいことでも大事にさせる。 □能力・特性 ・ 現段階での将来の夢や就きたい職業を選択している理由についても話し合わせる。 □価値観 □役割・責任・期待 ・ 各グループの話し合いの様子を見ながら、話し合いがうまくいっていないグループには、楽しかったこと、初めて知ったことなどから話し合うように助言する。 ・ 二つ又は三つのグループの話し合いの様子を発表させ、学級全体でのシェアリングを深める。
終末 (まとめ)	9 教師の話聞く。 10 次時の学級活動の内容について説明を聞く。 「計画的な学習の進め方」をテーマに、自分の将来の夢や就きたい職業に近づくための具体的な努力方法について考えることを確認する。 11 学習のまとめと自己評価をする。	5分	・ 将来の夢や職業について考えることは、今の自分を考えることにつながっていることを説明する。 ・ 将来の夢や職業が漠然としていても、これからじっくりと自分のよさや興味・関心のあることを見付け、希望をもって学習していくことが大事であることを説明する。 □行動計画 ・ ワークシートに学習全体の感想をまとめる。

エ 評価

- (ア) 自分の将来の夢や今、関心をもっている職業をテーマにしたグループ活動に、積極的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度)
 (イ) 学習の進め方に従ってグループ活動に取り組むことができたか。(技能・表現)
 (ウ) 自分自身についての理解やこれから努力すべきことについて考えることができたか。(知識・理解)

(国分康孝監修 『エンカウンターで学級が変わるpart2中学校編』 1997「私はだあれ？」を参考に作成)

(2) 個別進路相談（中学校，高等学校，盲・聾・養護学校）の例

個別進路相談では，進路に関する課題の発見からその明確化，課題の解決に至るまで，様々な機会をとらえて相談につなげ，生徒が主体的に課題を解決することができるように支援することが必要である。

例1：教師の一方的な意見や考えによる相談例

<p>先生：進路のことはどう考えてる？ 生徒：まだはっきりしません。系の学校と系の学校のどちらへ行くか迷っています。 先生：迷っている暇なんかない。早くどちらか決めて勉強を頑張らないと、今の成績ではどちらの学校も厳しいと思う。 生徒：はい・・・。 先生：先生が生徒の頃は、志望校は入学当初から決めていた。迷っていないで、どちらか早く決めてしまいなさい。 生徒：・・・。</p>	<p>応答が指示的で、生徒自身の主体的な考えを導こうとしていない。</p> <p>教師の経験を基に生徒を誘導している。欲求や関心など、生徒の自己理解を促す配慮が足りない。</p>
---	---

例2：生徒の思いを受容的，共感的に受け止めた相談例

□：自己理解を促すための支援のポイント

<p>先生：進路のことはどう考えてる？ 生徒：まだはっきりしません。系の学校と系の学校のどちらへ行こうか迷っています。 先生：そうか、迷ってるんだね・・・。 将来は、どんな職業に就こうと思っているの？ 生徒：・・・。 先生：小学校のころは、何になりたいと思っていたの？ 生徒：小学校の時は、消防士になりたいと思っていました。 先生：消防士か、すごいな。どうして消防士になりたいと思ったの。 生徒：人の命を守るため、懸命に消火活動や救助活動をする姿を見て、自分も人の役に立つ仕事をしたいと思いました。 先生：君は責任感もあるし、友達からの信頼も厚いよね。消防士は君に合ってると思うな。将来の自分の仕事も考えながら自分を生かせる進路について考えるといいよ。先生も資料を調べてみるから、君も一緒に調べないか。それから志望校を考えようか。 生徒：はい。</p>	<p>迷っていることに対して、否定的にかかわるのではなく、受容的に認めることで生徒に安心感を与える。 受容的な受け止め</p> <p>小学校時代の夢を聞くことで、生徒自身の欲求や興味・関心を意識させる。 欲求と動機 興味・関心</p> <p>生徒の話から、働くことの価値をどこに見い出しているか聞き出している。 価値観</p> <p>他者からの客観的な評価，共感的な理解により，信頼感が生まれ，生徒自身も安心して自己特性等を見つめられるようになる。 能力・特性</p> <p>一緒に調べようという問い掛けにより，生徒の意欲や積極性を引き出すようとしている。 行動計画</p>
--	--

小，中，高等学校のそれぞれの学校段階における生き方（在り方）指導としての進路指導が充実したものとなるためには，その必要性・重要性を再認識するとともに，本稿で述べてきたように，個の発達を支援する教師のきめ細かなかわりが大切である。したがって，今後，校内研修等に計画的に位置付ける

とともに，保護者と連携した支援の一層の充実が望まれる。

【参考・引用文献】

『キャリアカウンセリング最新ノウハウブック』
 2004.9 加藤雅則 リクルート
 『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』 平成16年1月28日
 『エンカウンターで学級が変わる part2 中学校編』
 1997 國分康孝監修 図書文化
 『日本労働研究雑誌 No525/April 2004』 宮城まり子

（教育相談課）